

週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月9日(土)

《正しい祈りの意向・固定観念からの開放》

今日の第一朗読(一ヨハネ 5・14 21)では、素晴らしい話がされています。神様は、皆様が願うとき、祈るときに、その祈りを聞いてくださるでしょうか。「私の祈りはほとんど聞いてくださる」と思う方はいますか？ 2人ですね。では、「いくら祈っても全然聞いてくださらない」と思う人は？ 2人ですね。それ以外の方は、「たまには聞いてくださるけれど、全然聞いてくださらない時もある」ということでしょうか。

その理由は、今日の第一朗読にはっきり書かれています。

「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。」

一番大切なことは、『神様の御心に適うかどうか』です。私たちはいろいろなことを願いますが、「その願いや望みが、御心に適えば、神様はそれを聞いてくださる」とはっきり使徒ヨハネはおっしゃっているのです。では、聞いてくださらないことは御心に適わないことなのでしょう。そうかもしれません。願っても、願っても、なぜ神様は聞いてくれないのか、なぜこれができないのか、と思う場合があると思います。しかし、私が皆様に申しあげたいのは、そう思う前に、まず**「“神様は私にとって一番良い道に導いてくださる”と考えるなければならない**」ということ。そういう信仰が必要なのです。もし聞いてくださらなかったような気がするならば、「それは聞いてくれなかったほうが私にとってよいことだったのだ」と思って下さい。それが信仰です。そして、聞いてくださったと思うときには、感謝しながら、「御心に適えばイエス様は必ず聞いてくださる」と思うのがよいと思います。イエス様は、全ての祈りを聞いてくださいます。「これは、適えられた。」「これは、適えられなかった。」と私たちが判断できるものではありません。ですから皆様、祈るときには、いつも最後に**「この望みが、あなたの御旨に適うようにお願いします。」**という祈りも入れなければなりません。信じてください、あなた方に一番必要な道、一番よい道をイエス様は既に選んだのです。そしてその道に導こうとしているのです。しかし、拒むのは私たちです。拒んでも、神様は無力で何もできません。ただ、ただ、いつもよい道へ導こうとしている、そういう神様の選択を信頼すればよいのではないかと思います。

さあ、今日の福音(ヨハネ 3・22 30)について、面白い話をします。「洗礼者ヨハネの弟子たちがあがるユダヤ人と論争になった」と書いてありますね。清めることについての論争でした。同時に、「イエス様が別の場所で洗礼を授けている」という説明もありました。それに対して洗礼者ヨハネの弟子たちは、正しさを考えずに、ただ気を悪くします。その人が正しいことを行っているかどうかは目に入らなくて、ただ自分の縄張りを奪われた気持ちだけで心を痛めます。そして「私たちの先生のほうがもっと清める力がある」と叫んだのでしょう。すると論争をした相手のユダヤ人は、「いいえ。噂によると、あちらのイエスという人の洗礼はもっと効果があるそうです。」と言います。勉強などしなかった時代ですから、そのように子どもっぽい争いになったと思います。そして、洗礼者ヨハネの弟子た

ちはヨハネのもとに行きます。「あなたと一緒にいたあの人が、向こう側で洗礼を受けています。人々は、全部そこに行ってしまいます。どうすればよいのですか。」と言います。こういうことは、ふだんの生活の中でも十分にあります。この教会での中でも、よく起こる一般的な話です。

さあ、皆様は客観的にこの聖書を読んでいますのですぐに分かりますね。ヨハネの弟子たちは、「これが正しい」「これは正しくない。」と言っているように見えますが、実は腹を立てているだけなのです。自分のものが奪われたという感情になり、ものすごく辛い気持ちになっています。そこで、洗礼者ヨハネは、「あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」と言っています。つまり、「イエス様は高くならなければならない。私は低くならない。」という意味です。

さあ、ある科学者が、ガラスビンの口と底を残して、まわりを全て黒い紙で包みました。光が入ってくるのは、口と底からだけです。そのガラスビンに、ミツバチを1匹と、ハエを一匹入れます。そして、ビンの口を暗いほうにむけて横に倒します。ですから実際に光が入ってくるのは底からだけになります。二匹の虫のうち、逃げられるのはどちらだと思いますか。

答えは、ハエです。ミツバチは、結局飢えて死んでしまいました。ミツバチは、とても組織的な生活をしています。それで、色々な情報が頭に入力されています。ですから、いつも光の方に向かいます。自分が持っている考え、固定観念に負けてしまうのです。「光の方に行かなければ救われない」という本能的なものがあります。けれども、ハエは汚い生きものです。何回も底から出ようとしますが、壁があって出られません。だから、暗くても怖くても口から出て行きます。しかし、ミツバチは最後まで光に向いている底から出ようとして、飢え死にしてしまったのです。

皆様、これは今日のヨハネの弟子たちが見ている一つの問題ではないかと思えます。私たちはいろいろな固定観念に縛られています。この道でなければいけない、このような形でなければ好きになれない、と。そして、そういう考えを強く美化させてこだわっています。しかし、神様はいつも私たちに「固定観念を捨てるように。全ての可能性に心を開くように。」おっしゃっているのではないかと思います。

今日の福音の中の、子どもっぽくけんかをして、腹を立てているヨハネの弟子達の姿が、私たちの中にもあるのではないかと反省をしてみましよう。

ありがとうございました。